

平成17年度東北農政局長賞

福島県相馬郡新地町岡

「岡地区自治会」

位置図



地区の概要

事項	内容
地区の規模	集落の集合体(5集落)
地区の性格	平地農業地域
農家率	44.3%
	(内訳)
	総世帯数 159戸
	農家数 82戸
販売農家数	73戸
	(内訳)
	専業農家 12戸
	I兼農家 13戸
	II兼農家 48戸
主要作物 ()内産出額	水稲 (44百万円)
	りんご (40百万円)
	にら (29百万円)
農用地の状況	耕地計 121ha
	(内訳)
	田 65ha
	畑 37ha
	樹園地 1.9ha
	耕地率 26.4%
	農家一戸当たり農用地面積 1.48ha

【むらづくりの経緯・動機等】

- ・ 岡地区は米とにら等の野菜、りんごの栽培を組み合わせた複合経営が盛んな地域で、5つの集落から成る。
- ・ 農地の集積や集団転作等が進まない状況下で、高齢化や人口減少による遊休農地の増加、農業面の担い手不足など、地区の将来に対する不安が増大。
- ・ これらの問題を議論するため平成5年に「岡地区むらづくり委員会」を立ち上げ、農業振興策等の方針を明確化、その実現のため、土地利用調整団体などの各種活動組織を設立しむらづくりを本格化。

【推進体制】

- ・ 自治会は各集落から選出された協議員で構成される役員会により運営。
- ・ 生活関連の環境維持等を担う自治会と土地利用調整団体「岡地区営農改善組合」や受託組織「岡地区経営者会」などの農業生産組織が連携し各取組を推進。

【生産面における寄与状況】

- ・ ほ場整備を契機に地区内受益農家83戸の「岡地区営農改善組合」を平成13年に設立。合意形成のもと地区内全水田を県農業公社を介して農家へ利用権設定を行い、農地の集約化を図るとともに、集団転作約13haの大豆栽培の団地化を実現。
- ・ 平成14年に地区内の認定農業者6名が大豆栽培の作業受託組織「岡地区経営者会」を設立。大型機械等を導入した作業体系のもと、ブロックローテーションによる連作障害の回避などにより、収量及び品質の高い大豆生産を行う。
- ・ 安心・安全に配慮したにらやりんご作りのほか、新規就農者の受け入れや担い手の育成を進める。

【生活・環境整備面における寄与状況】

- ・ 平成6年に「新地城址会」を設立。地区のシンボルでありながら荒れ地となっていた新地城跡を史跡公園として整備し、住民の憩いの場となる。また、新地城址の環境美化のチューリップ等の植栽がイベントに成長し、多くの観光客が訪れる。
- ・ 遊休地に住民手作りの自然公園「蛭の里」を整備。
- ・ 上記の取組が縁となり他地域との交流を進める。



新地城址遠景（中央上）



「岡地区経営者会」による大豆の収穫



「新地城址会」により史跡公園に整備された現在の新地城址



住民手作りの自然公園「蛭の里」